

チームの社会連携による 公共空間でのサッカー防災イベント



2019年10月15日

一般社団法人TCCM 中井 久美
株式会社HITOTOWA 津村¹ 翔士

<登壇者の自己紹介>一般社団法人TCCM 中井 久美



<登壇者の自己紹介>一般社団法人TCCM 中井 久美

一般社団法人TCCM(トヨタ シティセンターマネジメント) 事業統括部長

1974年生まれ。短大卒業後、株式会社豊田そごうに入社し、販売推進、主に、催事企画、プロパー企画、広報を担当。

2000年豊田そごうを含むそごうグループ22社が民事再生法の適用を申請、閉店にともない退職。

2001年5月に豊田まちづくり株式会社入社し、豊田市中心市街地の活性化を目指した事業を担当し、2018年4月に一般社団法人TCCMに出向。

一般社団法人TCCM ご紹介

代表理事:河木照雄(豊田商工会議所副会頭、豊田まちづくり株式会社代表理事)

設立:2017年2月28日

都市再生推進法人指定年月日:2018年3月23日

構成:豊田商工会議所4名、豊田まちづくり2名が設立社員

職員数:5名(うち役員3名(非常勤)、常勤2名)

目的:豊田市中心市街地のエリアマネジメントを推進するため『まち・エリアの価値の向上』、
『まちの楽しみをつくる魅力の発信』を目的に公益性を持つ組織として設立。

公共空間活用のまちづくり事業や、楽しさ魅力発信のプロモーション事業等を展開する。



<登壇者の自己紹介>株式会社HITOTOWA 津村 翔士



株式会社HITOTOWA

ソーシャルフットボール事業 執行役員

1983年生まれ。大学卒業後、株式会社リクルートに入社。福岡県・大分県・関西圏・首都圏にて勤務し、主にHR(人材領域)の営業に従事。

2017年にHITOTOWAに入社し、主にサッカーを通じた社会課題解決事業を担当。

2018年9月より現職。

株式会社HITOTOWA ご紹介

代表者: 荒 昌史

設立: 2010年12月24日

資本金: 600万円

事業: CSR/CSVコンサルティング事業

 ネイバーフッドデザイン事業

 ソーシャルフットボール事業

主な取引先:

積水ハウス株式会社

大和ハウス工業株式会社

東京建物株式会社

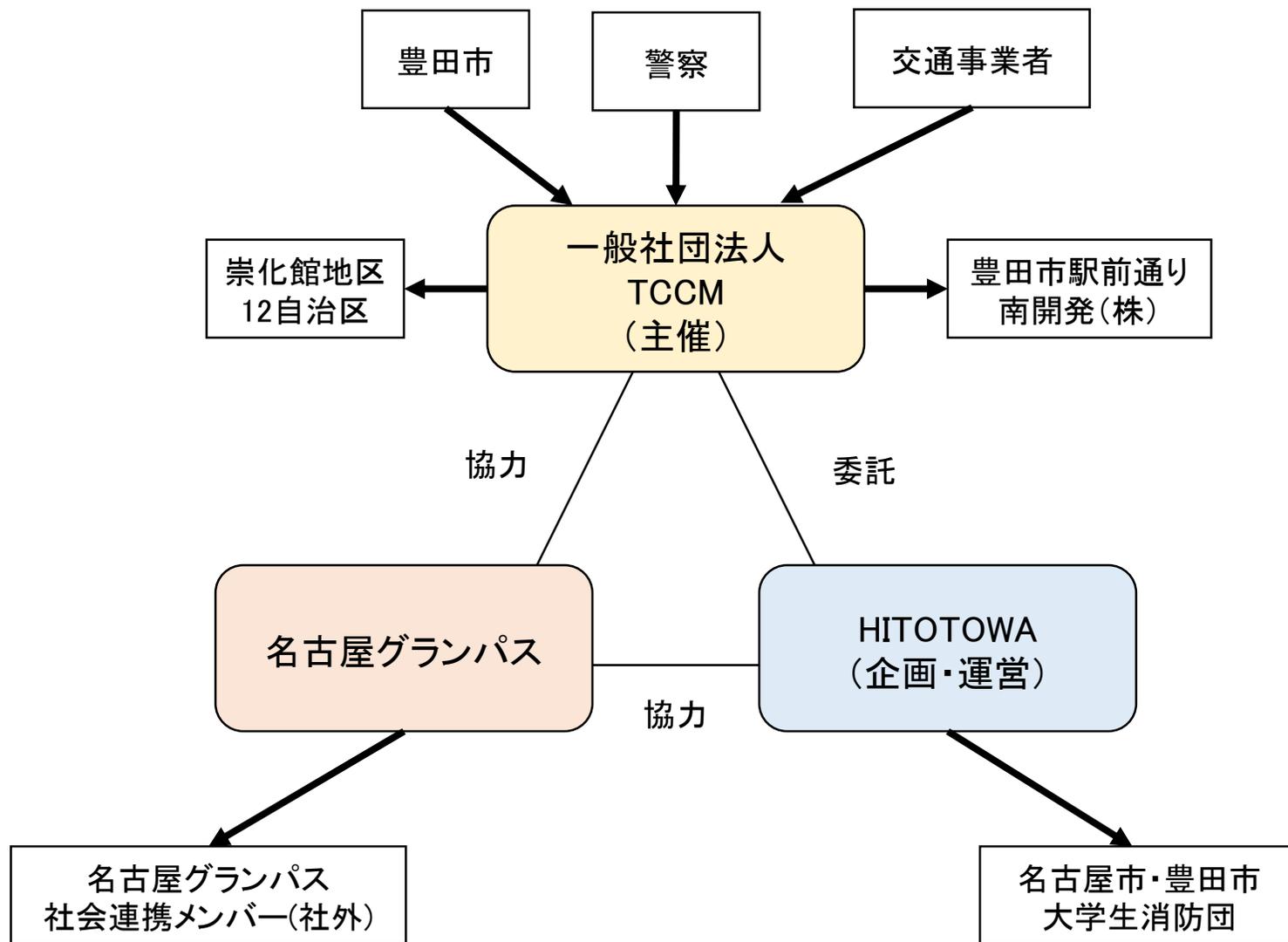
三菱地所レジデンス株式会社

UR都市機構 など他



※西東京市 ひばりヶ丘団地での取り組み

本取り組みの組織体制・登場人物紹介



目的

街のにぎわい創出

安全な街づくり

地域住民の巻き込み

対象

対 来街者

対 地域住民

アセット

駅前大通り
(公共空間)



企画背景<TCCM目線>

■「道路占用許可の特例制度」「都市利便増進協定」を活用した 豊田市駅前通りの賑わい創出

- 道路をにぎわいの場として活用できることを認知してもらう
- TCCMが今後エリアマネジメントを推進するために、沿線企業や地域住民と連携するための入口として。

■ラグビーワールドカップ2019の

「おもてなしエリア(歩行者天国)」を想定した確認

- 車両進入規制時間を想定した搬入や搬出等の運営の確認
- 歩行者誘導、車両誘導、テロ対策など警備の確認
- 公共交通、一般車両、業務車両等周辺の交通処理や渋滞状況の確認

■名古屋グランパスのホームタウンとしての盛り上げ

- 駅前沿線で開催することによる周辺商店への波及効果をねらう
- 防災という誰もが必要な情報をきっかけにした名古屋グランパスへの愛着形成

■安全な街づくり

「防災」は、世代や属性を問わない、地域住民に関わる共通のテーマ。

若い世代をどうやって防災に巻き込むか？

→ サッカーをしながら防災を学ぶ「ディフェンス・アクション」

■地域の方々の巻き込み

企画への協力：崇化館地区12自治区、名古屋グランパス

企画の運営サポート：地元の大学生消防団

サッカーをしながら

本質的な防災を楽しく学ぶことができる

HITOTOWAオリジナルのプログラムです。

「本質的な防災」

- ・・・継続的に学びたい、前向きに防災に取り組む
- ・・・チームワークによって共助を学ぶ、共助のきっかけ





豊田市駅前を「試合前に通り過ぎる街」から
「日常的に身近な街」へ

→ 商店街のようなコミュニティを創る

Jリーグ社会連携 2030ゴールイメージ



- ◆クラブへの応援や活動を通じて、街に愛着や誇りを感じている
- ◆クラブやコミュニティへの関わりが人々の生きがいとなっている
- ◆クラブが、皆が利用できる「公共財」として位置付けられている

企画内容

イレブン防災ブース エリア



エレベータ内で地震にあった際の対処法や備蓄品の種類といった基礎的な防災ノウハウや豊田市の防災施策をサッカーの要素を取り入れたゲームで楽しみながら学ぶエリア。当日は多くの親子連れが来場。

商店街エリア



トヨタ関連企業や大通り沿いのカフェなど、豊田市駅前に関わる地域の方々が、試合観戦に来たファン・サポーター向けにキックターゲットやWingletの試乗体験など、楽しめるプログラムを提供。

ディフェンス・アクションエリア



名古屋グランパスOBの榎崎正剛さんをゲストにお招きし、事前予約で来場した100名の参加者と一緒にディフェンス・アクションで防災を学んだ。ゲストのサッカー教室と同時に開催することで、多くの親子連れやファンが参加。

今後について

<主催者として>

- ・防災について、事業者、住民がともに考え取り組む
→TCCMが行うエリアマネジメントの一つ
- ・防災サッカーを通じた名古屋グランパスの愛着形成
→試合観戦者の増加につながり、
その先にはまちなかのにぎわいづくりにつながる

<企画者として>

- ・防災は継続してこそ意味がある
- ・単発のイベントではなく、定期的に接点を創る